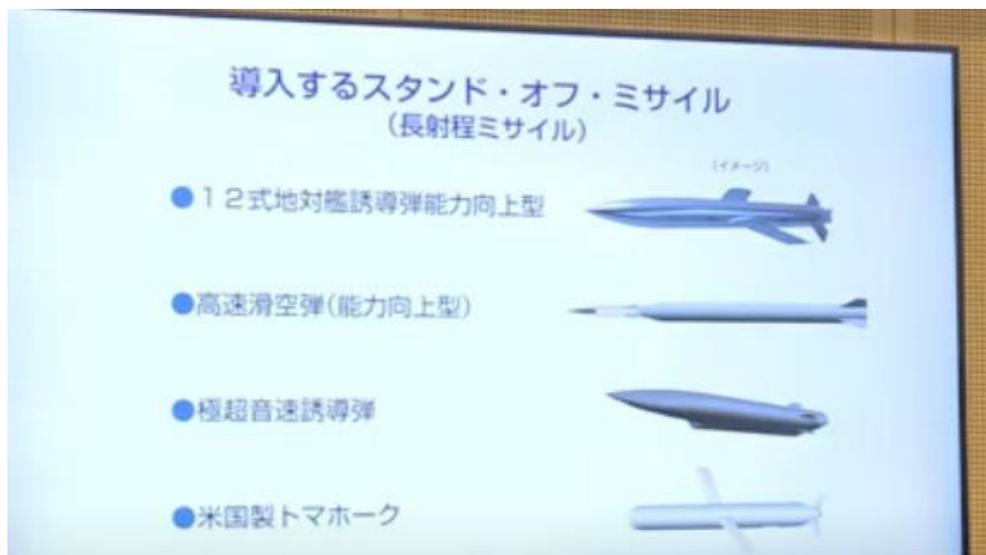


**「最低限の攻撃力を有するための閣議決定」といいますが。**  
政府が導入しようとしている「敵基地攻撃能力」とは具体的にどのようなものか。  
敵基地攻撃能力 導入するスタンド・オフ・ミサイル 具体的中身はどんなものか



導入するスタンドオフミサイル 長射程ミサイル

◆12式（ヒトニシキ）地对艦誘導弾 能力向上型

射程を従来型の 200 キロから 1000 キロ以上の延伸 地上だけでなく艦船、戦闘機にも配備

◆高速滑空弾（能力向上型）

迎撃困難な高高度を超音速で滑空し、落下・対地攻撃 射程は 2000 キロ

◆<sup>マッハ</sup>極超音速誘導弾

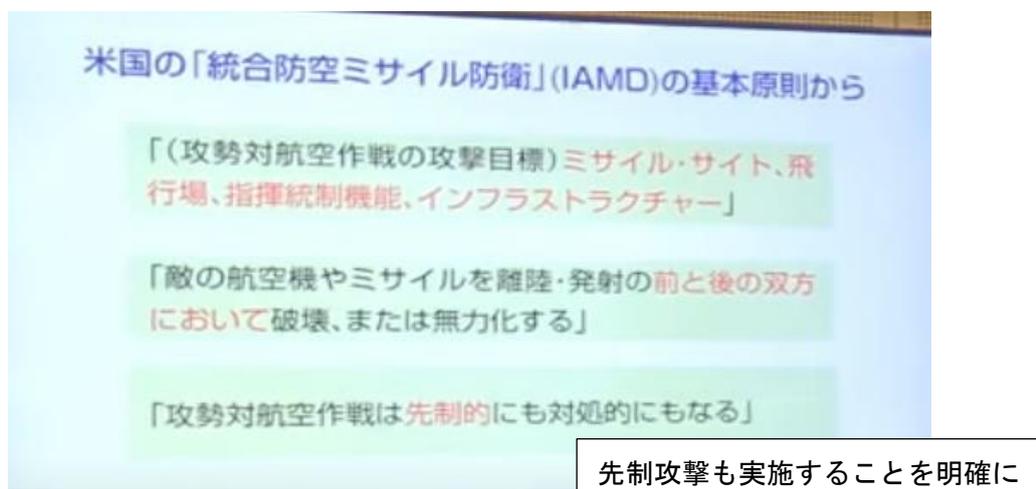
スクラム・ジェットエンジンを搭載。マッハ 5 以上の速度で飛行。迎撃困難に  
射程は 3000 キロ 防衛省作成 10 年後の配備計画を作成し説明 突破力に優れている。

◆トマホーク イラク・アフガニスタンなど米の先制攻撃戦争で繰り返し使用。

射程は、1600 キロ以上 米から 400 発購入し全国に配備する。 旅客機ぐらいの速さ。

政府はこれまで、専守防衛に徹し、「盾」しか持たない。「矛」は持たないとして来た。  
これだけの武器を持つとすれば、相手国に脅威を与える武器となり、憲法違反では。  
このようなミサイルを保有しても、「専守防衛」と言えるでしょうか。

それでは、これら配備するミサイルどのように運用するか。なぜ保有するのか。米国の「統合防空ミサイル防衛」(IAMD)の基本原則から ◆ここに日本も参加する



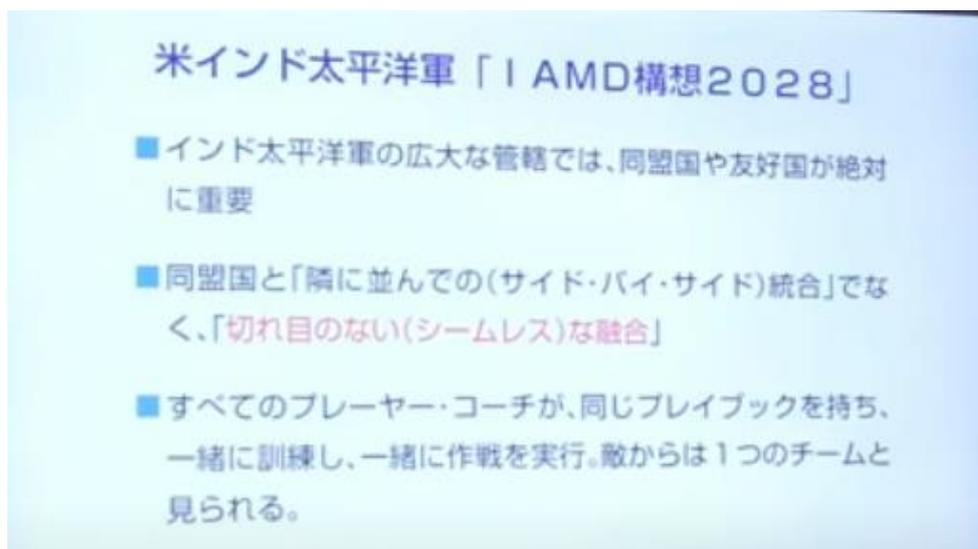
岸田総理との国会質疑

Q. アメリカのこの戦略原則を知っているか A. 岸田総理 知っている。

しかし、アメリカは、国際法違反の先制攻撃することはない。

しかし、実際は1980年代 グレナダ ビリア パナマなど国連でも非難決議採択。ベトナム戦争なども先制攻撃して来た。

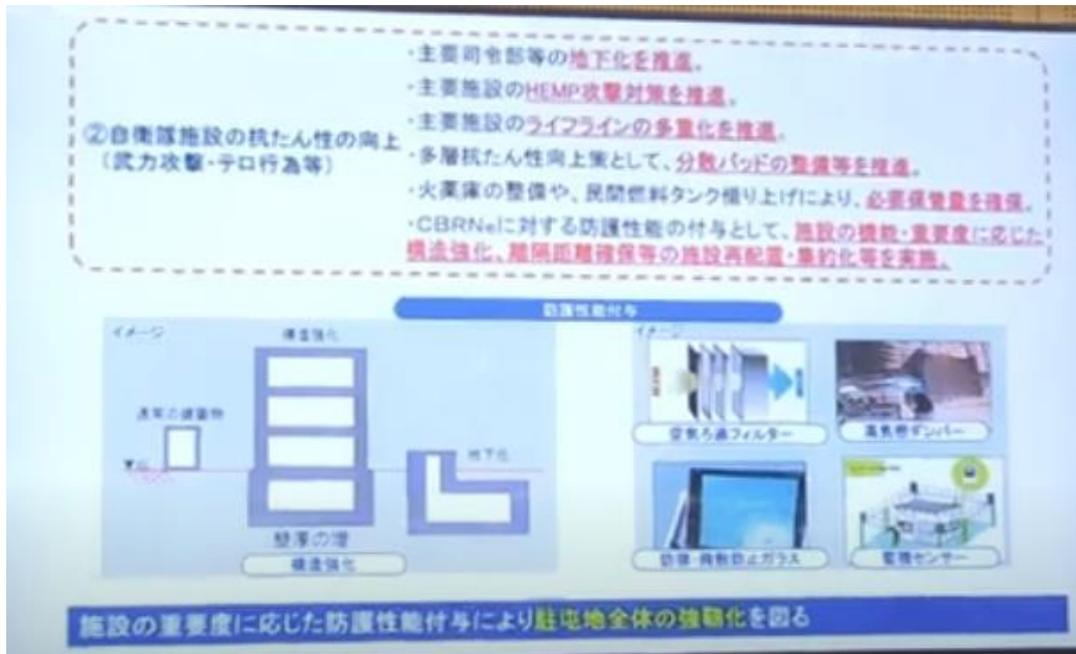
A. 岸田総理 アメリカと日本のIAMDとは違うので、日本の自衛隊は独立の指揮系統で動くもの。との説明をしている。



構想では、同盟国や友好国が絶対必要で、「統合」ではなく、米と自衛隊は「融合」との説明がされています。軍事作戦から考えると一体的にやる事が明確。

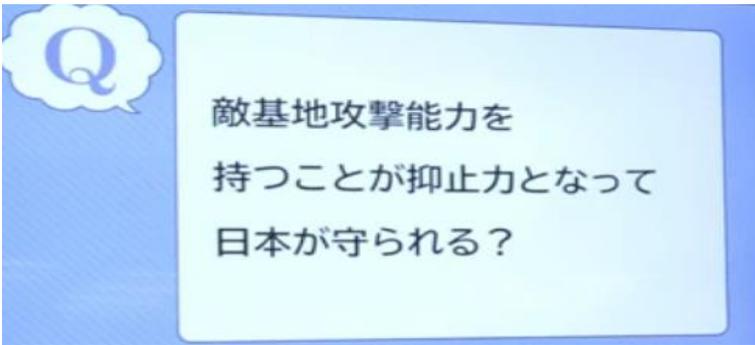
アメリカの先制攻撃に参加することになれば、憲法違反のみならず、国際法に違反。

敵基地攻撃を行えば、反撃され日本中が攻撃される危険があることを想定し、政府は自衛隊の基地が核攻撃などあらゆる攻撃に耐えうるよう「強靱化」を進めています。5年間で4兆円の予算 既にゼネコンに説明会を開催しています。



自衛隊基地を地下化する。核兵器にも耐えうる自衛隊基地の構築を進めている。日本を守るためとするが、むしろ戦争を呼び込むことになる。政府は認識していることを示している。

抑止力について  
考えて見たい。



敵基地攻撃の保有は、「抑止力」を高めるものであるとの考え方がありますが・・・、「軍事」に対抗して「軍事」で対抗することで抑止力が働くとする「抑止」の本質は、相手国に「恐怖」を与えることで抑止効果が生まれるものであり、「抑止」=「恐怖」となり、お互いに「脅威」を与えようと「脅威」対「脅威」を競うあう悪循環におちいることになると思います。世界の様々な歴史と現実が、そのことを示しているのではないのでしょうか。

これまで日本は、憲法を守り「専守防衛」に徹して来た

1972年10月31日 田中角栄内閣総理大臣答弁

「専守防衛ないし専守防衛というの、防衛上の必要からも相手の基地を攻撃することなく、もっぱらわが国土及びその周辺において防衛を行なうということございまして、これはわが国防衛の基本的な方針である」

## 最後に

想定されるのは、安保法制のもと敵基地攻撃を進めるとなれば、アメリカが始めた戦争であっても、日本の自衛隊とアメリカ軍が一体となり、相手国がミサイルを発射する前に「日本の存亡の危機」「ミサイル発射に着手した」と日本政府が判断し、トマホークなどミサイルを発射することになる。先制攻撃となり、その結果、相手国からも報復攻撃が考えられ、戦争を呼び込むことになる。

抑止力の向上のためとして、軍備対軍備、「脅威」対「脅威」の軍拡競争となり、軍拡のための財源は、増税、国債の発行、社会保障の削減が進められていくことになる。

憲法、9条を守り、専守防衛に徹して、他国に脅威を与えず、戦争しない国として、外交に徹して世界を駆け巡ることこそ、日本が果たす役割であり、憲法9条を生かした、憲法が世界を平和へと導く大きな力を発揮することになるのではないのでしょうか。

2. 外交が通用しない隣国から、攻撃を受けた場合に、国民を守る方法があれば、どのような方法があるのかお示してください。

ロシアによるウクライナ侵略が続いている今、混迷する世界で、平和の構築をどう進めるのか平和ビジョンが問われていると考えます。



東南アジア諸国連合 ASEAN では、関係国が友好条約を結んで紛争はあっても戦争にはしない。話し合いのテーブルを作り、一年に1000回も話し合いをしている。

どのようにして平和を築くのか、あらゆる紛争を国連憲章に基づく、徹底的な話し合いを進める。その際、あれこれの国を排除して、話し合いするのではなく、全ての国を包み込んで話し合うことが重要であると考えます。

今、ASEAN では戦争の心配のない地域になっている。ここをお手本にした外交ビジョンこそ、最も平和を構築する現実的な、平和へのアプローチと言えるのではないのでしょうか。 平和憲法9条を持つ国として日本は世界に認知されています。今こそ平和憲法9条を活かした、外交にこそ力を注ぐ時であると考えます。